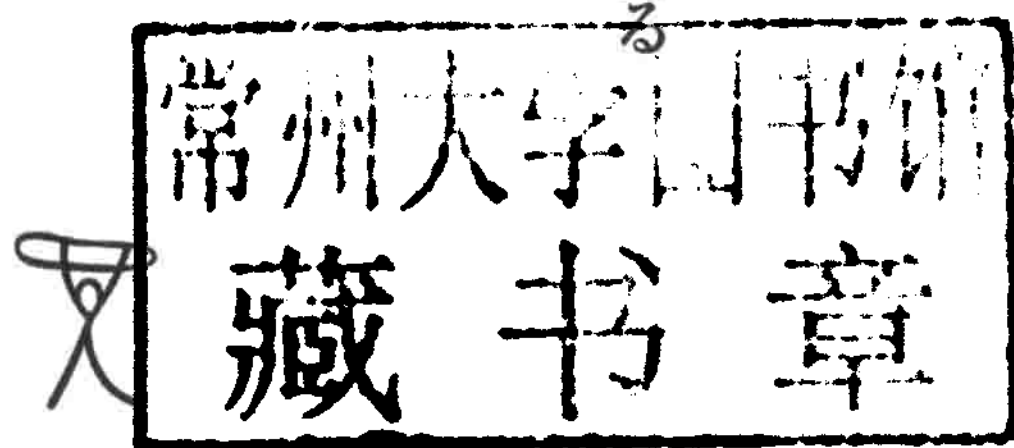


100の仕事も 同時に回る ダブルブッキング 時間術



おちまゐり

100の仕事も同時に回る
ダブルブッキング時間術



おちまこと

ソフトバンク新書

199

著者略歴

おちまさと

1965年東京都生まれ。プロデューサー。これまで数々のヒット番組の企画・演出・プロデュースを手がける。また、ウェブサイトやSNSゲーム、ファッション、有名企業のブランディングや講演まで、ジャンルの垣根を越えて多方面で活躍中。著書に『企画の教科書』シリーズ（NHK出版）、『相手に9割しゃべらせる質問術』（PHP新書）、『「気づく」技術』（ダイヤモンド社）、『人間関係は浅くていい。』（扶桑社新書）、『とっさのひと言で心に刺さるコメント術』（PHP新書）ほか

公式ブログ <http://ameblo.jp/ochimasato/>

ツイッター <http://twitter.com/ochimasato>

ソフトバンク新書 199

100の^{しごと}仕事も^{どうじ}同時に^{まわ}回る ^{じかんじゆつ}ダブルブッキング時間術

2012年7月25日 初版第1刷発行

著 者：おちまさと

発行者：新田光敏

発行所：ソフトバンク クリエイティブ株式会社

〒106-0032 東京都港区六本木 2-4-5

電話：03-5549-1201（営業部）

装 幀：ブックウォール

組 版：アーティザンカンパニー株式会社

印刷・製本：図書印刷株式会社

落丁本、乱丁本は小社営業部にてお取り替えいたします。定価はカバーに記載されております。本書の内容に関するご質問等は、小社学芸書籍編集部まで、書面にてご連絡いただきますようお願いいたします。

© Masato Ochi 2012 Printed in Japan

ISBN 978-4-7973-6978-6

目次

まえがき——仕事は同時多発が当たり前 3

第1章 時間は膨張する

- 直線的な時間と膨張する時間 16
- 「死ぬまであと何日？」から考える 23
- 時間は自由自在に操れる 28
- 優先順位の考え方 32
- ポジティブ・プランニングとネガティブ・シミュレーション 34
- プロジェクトを壊す人たち 36
- 時間を操ることと時間に操られることは違う 40
- 「けじめがない人」でいこう 42
- 「なぜ？」が奪われ時間は直線化した 45

第2章

プロデューサー思考で時間を操る

- 既成概念を捨てれば海がプールに見える！ 49
- 大げさに考えるから動けない 51
- 次元大介はハプニングに動じない 54
- 俯瞰する力 57
- 「ムダな時間を使わない」と「使った時間をムダにしない」 60
- 時間をシェアする心 62
- ゴールから逆算して考える 68
- 「あの人に限って」で一気に関心を引き付ける 71
- 誰もがプロデューサー思考を必要とする時代 75
- 橋下市長のスピード出世の理由 77
- 効率化の第一歩は「気づく」ことから 80
- セレクト力を身につける 83

● 「想定外を想定」する臨機応変力 85

● 偶然体質はどこから来るか 88

● 脳内に蓄積された記憶を検索する 90

● 僕がメモを取らない理由 93

● やらざるを得ない環境を整える 96

第3章

100のプロジェクトを回す

● 自分がいないところでもプロジェクトは動く 100

● プロジェクトは（映画の）銀行強盗に学べ 101

● 理想のチームは少数精鋭・一人多役がベスト 104

● 会議中にメールはいけないことか？ 108

● アイデアは「集中」していたら生まれない 112

● オンとオフなど分けられない 114

● 「ながら」は不真面目なのか？ 116

●	ながら仕事はスマート	118
---	------------	-----

第4章 クラウドで時間を巻く

●	「文明の利器」の二つの効用	124
●	ーTは本当に時間を巻いているか？	126
●	「出張中だからメールの返信ができない」の不思議	130
●	メールからクラウドへ	133
●	デスクがなくても仕事はできる	138
●	「ガラス張り」が時間を巻く	141
●	ズームイン／ズームアウト	145
●	時間をムダにしないブログ・SNSの使い方	149
●	流行の逆に行くことも頭に入れる	151

第5章 時間術の常識を疑え！

- 「時間を守ること」で時間をムダにしてはいけない 156
- 会議は盛り上がるために開くわけじゃない 158
- スケジュール帳を埋めて安心してはいけない 160
- 数字を旗印に掲げるな 163
- マーケティングバカもバカマーケティングも信用するな 165
- 成功体験はすべて忘れ去る 170
- 結果論としてのノマド 172
- 本は読んだら捨てる 174

あとがき——「この本を読んでもどうせ変われない」と思っている人へ 179

100の仕事も同時に回る
ダブルブッキング時間術

おちまさと

ソフトバンク新書 199



まえがき——仕事は同時多発が当たり前

プロデューサーとして、テレビ番組からウェブコンテンツやSNSゲームのプロデューサー、さまざまな企業のブランディングなどに携わり、僕は常時100を超えるプロジェクトを抱えています。

まさに同時多発。

「一日24時間でこなせる量じゃない」

「おちまさとは双子の弟がいるんじゃないか」

「おちまさにとって何人組ですか？」

そんな噂がまことしやかにささやかれたことさえあります（笑）。

毎日がダブルブッキング状態。

もちろん、本当のダブルブッキングはありませんが、あっちのプロジェクトが締め切りを迎えようとしているときにこっちのプロジェクトが始まるといった具合に、同時に二つ以上の仕事のことを動かさなければいけないといった状態は、日常茶飯事なのです。

そういった意味では、トリプルブッキングやそれ以上も当たり前前のことで、さらに100のプロジェクトを抱えるいまとなつては「ハンドレッドブッキング」と言った方が正確かもしれません（笑）。

二つできたから三つ、三つできたならついでに四つ……とプロジェクトが増えていき、そこからさらに生まれるプロジェクトもあつたりして、同時多発はどんどん加速していったのです。

さらには子育てや禁煙、肉体改造といったプライベートなことまでが企画化し、企業やメディアを巻き込んでプロジェクトに育っていくという具合です。

詳しくは第4章で述べるように僕は「サイボウズ」というクラウドツールを使って

スケジュールを管理していますが、もし紙の手帳を使っていたら毎日真っ黒になっているところですよ。

なぜそこまでやるのかと言われるば、これはもう持って生まれた性格としか言いようがありません。

「時間貧乏性」という性格。

僕は21歳で放送作家としてデビューして以来、どんな仕事であれ、せっかく声をかけていただいたものを、ただ単に忙しいからというだけで断ったことは一度もありません。

もちろん、かけだしの頃は、食うためにたくさんの仕事をしなくてはいけないという事情もあったわけですが、やはり一つのことだけに集中して取り組むというスタイルよりも、複数のことをやっていたいのです。

はっきり言うと、動きながらの方がアイデアも出るし、「ながら仕事」の方が集中

できるのです。

また、プロジェクトが増えれば増えるほど、スケジュールがタイトであればあるほど楽しくなってくるという性分でもあります。

「おちさんは100のプロジェクトのうち、どれを一番大事にしているのでしょうか？」
よく、そんなことを聞いてくる人がいますが、失礼な話です。どの仕事も真剣に取り組んでいます。

効率よく時間を使うため、すべきことの優先順位は徹底的に考えますが、仕事そのものに優劣をつけるようなことはありません。

この本は「ダブルブッキング時間術」について語ったものではありませんが、安請け合ひした仕事を適当に終わらせるための安直なノウハウではありません。

そこは間違っただけではありません。

二つであろうと三つであろうと100であろうと、ベストを尽くして成功に導かななくては意味がありません。

同時多発でやってくる膨大な仕事をあわてずにやり遂げるため、どのように時間を操っていくのか？

テンパってしまいがちな状況を楽しみながら乗り越えてベストの成果を出すため、何をどう考えればいいのか？

この本では、僕がプロデューサーとして実際に日々の仕事の中から導き出した時間の使い方・考え方をお伝えします。

また、スマートなタイムマネジメントを実現する具体的な方法について、僕が実際に使っているツールのことも含めて紹介してみたいと思っています。

プロデューサーの仕事とは、視点を変え、プロデュースする対象の潜在能力を引き出すための環境を設定することです。

だからまず、根本に立ち返って、時間というものの正体を見つめ直した上で、時間にまつわるさまざまな既成概念から自由になっていただきたいと思います。

「時間は誰にでも平等に与えられている」

「オンとオフのけじめをつけなければいけない」

「ながら仕事はいけない」

「ITで仕事が効率化する」

「目標には具体的な数字を入れた方がいい」

一見もつともらしく見える時間の「常識」には、多くのワナが潜んでいます。

時間術とは、限りある時間を自由自在に操り、より実りの多いものとするものでなければなりません。

時間は自分の手で操るべきものです。

時間に操られてはいけません。

目的と手段を取り違えてはいけないのです。

この本に書かれているのは、実践から得た気づきです。

だから、きちんと読んでいただければ、あなたもきつと僕と同じように100のプロジェクトでも動かすことができるようになるはずです。

そんなにたくさんの仕事はしたくないという方もいらっしゃると思いますが、逆に、同じ時間に一つしかすることがないという人などいないのではないかと僕は思うのです。

このことは一冊を通じて語っていきますが、時間について知り、時間を操る術を身につけることは、あらゆる人に必要なことだと僕は考えています。

ハプニングに強くなる。

クリエイティブな発想が湧いて仕事がおもしろくなる。

自分の人生と真剣に向き合い、やる気が湧いてくる。

そんなメリットも得られるかもしれません。

ヒントになりそうなところを拾っていただけるだけでも、十分に気づきが得られると思います。